明るく健康な生徒　正しい判断力をもち主体的に学び行動する生徒　豊かな情操をもち品位ある生徒

石神井中だより

練馬区立石神井中学校
校長　櫻井　弘
令和３年３月２５日
第１２号

『　絆　』

３月 19 日（金）に行われた卒業式。
参列できなかった２年生・１年生に、卒業生の思いがたくさんの「門出の言葉」、卒業生への思いをこめた「贈る言葉」を紹介します。

令和２年度

第７４回　卒 業 式

令和３年３月１９日（金）開式　午前９時３０分

式場　本校体育館

式 次 第

1　開式のことば
2　国歌心唱
3　学事報告
4　卒業証書授与
5　学校長式辞
6　在校生による送ることば
7　卒業生による門出のことば
8　校歌心唱
9　閉式のことば

練馬区立石神井中学校

「門出の言葉」は卒業生全員で創り上げました。それぞれのテーマを学級ごとに分担し、全員でアイディアを出し合い、それを学級の代表者が練り上げ、最後に代表者が完成させました。卒業生二二九名の言葉をお届けします。

卒業生による「門出のことば」

冬は白。春は紫。学び舎にみつる青春。

こぞりてぞ力を合わし、眉上げよわれらともがら。

今日私たち二二九名はこの石神井中学校を卒業します。

三年前、私たちは新しい生活への期待と不安で胸をいっぱいにし、入学式を迎えました。新しい発見や驚きの連続で、小学校との違いを実感しました。最も印象に残っているのは、入学式での先輩方の合唱です。力強い歌声は先輩方のたくましさや何事にも全力で取り組む姿勢を象徴しているようで、憧れを抱かずにはいられませんでした。校内ですれ違うと挨拶をするという習慣には感動を覚えました。先輩方の自主的な姿からは、入学前と後でひとつひとつのことに対する責任の重みが変わったことを学びました。このように、縁があって出会った仲間や先生・先輩方から刺激を受け、充実した中学校生活が始まりました。

石神井中学校では様々な行事があり、行事を通して仲間との絆を深めてきました。一、二年のスキー移動教室では、うまく止まれずに何回も転んでしまいました。しかし、練習を重ねたことで上手に滑れるようになりました。頂上から滑り下りた時の風は気持ちよく、最高でした。

体育祭では、今年度の石神井オリンピックが思い出に残っています。リレーでは、練習で毎回最下位でしたが、本番ではクラスが心を一つにしてバトンを繋ぎ、順位を上げることができました。その時のクラスのみんなの笑顔は、忘れられません。人と協力することの難しさ、楽しさを知り、改めて仲間の存在の大切さに気づかされました。

楽しかったとき、辛かったとき、いつも側にいてくれた仲間。私たちは三年間でたくさんの仲間と出会いました。ぶつかり合い、対立したこともありました。しかし、乗り越えることで、絆がより一層深まりました。受験勉強で心が折れそうになったとき、「今、頑張っている仲間がいる。自分も頑張ろう」と思い、最後まで頑張ることができました。先生が「受験は団体戦」とおっしゃっていた意味がこのとき身にしみてわかりました。

三年間はあっという間でしたが、仲間と過ごした毎日はとても充実していて、決して消えることのない思い出となりました。今の自分がいるのは皆のおかげです。仲良くしてくれてありがとう。

私たちはこの一年間、新型コロナウイルスの影響を多く受けました。約三ヶ月間学校が休校となり、修学旅行や合唱コンクールが中止になりました。悔しい思いに押しつぶされそうな時もありました。しかし、これらの経験は私たちを大きく成長させてくれました。

友達と当たり前のようにはしゃぎ合えていた日常のありがたみ、新しい生活様式に臨機応変に対応する力、そして、自分の行動に責任をもつ大切さ。私たちがこのような環境の中でも多くのことを学べたのは、不安をなくすために相談にのってくださった先生方、安心して落ち着ける居場所をつくってくださった保護者の方々のおかげです。ありがとうございました。

先生方は、入学したてで何も知らなかった私たちを温かく迎えてくださりました。コロナで多くの行事ができなくなりましたが、少しでも私たちがいい思い出を作れるよう、代わりの行事を考えてくださりました。三年間の中学校生活で先生方に教えていただいたこと、迷惑をかけて叱られたことなど、全てが今の私たちの成長につながっています。
保護者の皆さん、強く当たってしまい、迷惑をかけたこともありましたが、いつも優しく寄りそってくれてありがとうございました。どんなに忙しくても受験期間、私たちを最後まで励まし、支えてくれる人のありがたみを改めて感じました。感謝しきれないほど感謝しています。義務教育が終わり、社会に一歩踏み出す今、教わったことを生かし、より成長していきます。

在校生のみなさん、この一年間は、行事も部活動も満足して行えない、大変な時期でした。こんな時期だからこそ、仲間と過ごせる日常に感謝をして、一日一日を大切にしていってください。そして、入学してくる後輩に石中の良さを知ってもらうため、石中の伝統を自分の姿で伝え、憧れの先輩になれるように、夢、目標に向かって精一杯努力してください。仲間を信じ、一丸となって前に進み、この困難を乗りこえれば、よりすばらしい石中を創り上げられると信じています。努力し続けるみなさんを私たちはいつまでも応援しています。

私たちは四月からそれぞれの道に進みます。悲しくてつらい別れは、すぐそこまで迫っています。しかし、別れの後には、新たな出会いが待っています。卒業生はみな、大きな不安を抱えていると思います。けれども、私たちは成長していかなければなりません。未来は自分の努力次第。明るい未来を切り拓くために努力し続けていきます。そして私たち一人一人が石神井中学校で学んだことを胸に希望をもち、それぞれの夢に向かって一歩ずつ進んでいきます。どんな壁に当たっても、この最高の仲間たちを思い出し、自信をもって前へと走り続けていきます。

令和三年三月十九日　卒業生二二九名代表　前野晴葵　真木優瑚　金子尚知

在校生による送ることば

暖かい春の光、ほころび始めた桜が先輩方の旅立ちを祝っているかのようです。このような良き日に三年生の皆さまがご卒業を迎えられますこと在校生一同、心からお祝い申し上げます。

この石神井中学校の門をくぐって早三年、今皆さんの頭には何が思い浮かんでいるでしょうか。互いに高め合った友達の顔、多くのことを学んだ教室、友達と走り回った校庭、それら全てと今日をもってお別れすることとなります。振り返ってみると、私たちも先輩方と過ごした様々な思い出が蘇ってまいります。

入学したてで右も左もわからない私たちに優しく接して下さったあの日から先輩方は私たちの模範でした。委員会活動などではこの学校の中心として企画・運営し、取り組んでいる姿に私たちは憧れを抱き、その背中から多くのことを学ばせていただきました。また、部活動においては地道な努力が実を結び、多くの部が活躍しています。合唱コンクールでの先輩方の声が一つとなり私たちの心が震わされたことは今でも鮮明に覚えています。「絆」、この言葉こそが先輩方を言い表す唯一無二の言葉だと思います。

しかし、二〇二〇年二月二十七日、新型コロナウイルス感染拡大に伴って臨時休校が要請され、私たちの日常は一瞬にして奪われました。先輩方もやりきれない気持ちになったはずです。新年度になり登校が再開されたあとも、いつも通りの学校生活はなかなか戻りませんでした。そんな中で行われた、石神井オリンピック。仲間が仲間を思いバトンを繋ぐ姿、声が枯れてもなお応援し続ける姿。私は感動しました。初めて見えない敵に打ち勝った瞬間でした。三年間かけて築き上げてきた絆の価値、絆こそがこの世で最も強い繋がりであり誰にも引き裂けないこと、先輩方は身をもって証明して下さいました。そんな姿にどれだけ多くの人が、どれだけ大きな勇気をいただいたことでしょう。仲間を信じること、相手を思いやること、絶対にあきらめないこと、全て先輩方から教わったことです。先輩方の後輩であれたこと、とても誇りに思います。ずっと憧れの先輩であり続けて下さり、本当にありがとうございました。

これから、先輩方が進まれる道は決して平坦なものではないと思います。しかし、そんな時にこそこの学び舎で身に付けたことや、友達との楽しかった思い出、辛かった経験、そして仲間との絆を思い出してほしいです。私たちも先輩方が熱い思いをかけて築き上げてこられたこの学校を大切に受け継ぎ、更に発展させ、次に繋いでいく覚悟です。先輩方もこの母校、石神井中学校をいつまでも忘れることなく温かく見守り、ご支援下さいますよう心からお願い申し上げます。

最後に、卒業生の皆さまの健康を更なるご発展を心よりお祈り申し上げ、在校生代表の送辞とさせていただきます。

令和三年　三月十九日　在校生４４３名代表　上田響正